

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 22 日

所 属：生命・環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名：永谷 真貴 職位：講師

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

臨床検査技師国家試験の対策科目である総合臨床検査学において、早期より国家試験問題に触れ、問題の解き方や問題の傾向を掴み、専門基礎知識を固め、基礎から応用問題を確実に解けるようにする。また、臨床検査技師として安全な医療を提供するため臨床検査のリスクマネジメントやチーム医療の一員としての役割、コミュニケーションスキルの重要性を伝えていくことが責務であると考えている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
総合臨床検査学 I	臨床検査技術学科	必須	3 年次	79
総合臨床検査学 II	臨床検査技術学科	必須	3 年次	84
総合臨床検査学 III	臨床検査技術学科	選択	4 年次	81
総合臨床検査学演習	臨床検査技術学科	選択	4 年次	85
臨床検査リスクマネジメント	臨床検査技術学科	必須	4 年次	80

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

各科目で学んだ検査を組み合わせて患者さんを支える検査データとなり、病気の診断や治療方針につながることを理解し、各検査を総合的に読み解く人材になってほしいと考えている。また、医療人としての倫理感を持ち、社会的なマナーやエチケットを守れるように日々の生活指導も行っていきたいと考えている。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

授業内に各科目の復習とともに、共通事項を説明しながら検査項目の関連を示すように努めている。文字だけでなく、イメージが付きやすいように図や表を用い、インプット・アウトプットができるように心がけている。答えを教えるだけでなく、解き方や参考書の紹介など自ら調べるきっかけを提示するようにしている。

出席登録の確認や課題の期日内提出など、授業内で決められたルールを守るように、意識づけている。

アクティブラーニングについての取組

臨床検査の総合学術情報雑誌（検査と技術、Medical Technology）を一人1冊配当し、雑誌の中から自身が気になるトピックを選び、主体的に学ぶ時間を設け、選んだトピックはどんなもので、何を感じ、何を考えたか、レポート課題を行っている。

ICTの教育への活用

学習管理システム「學理」を用いて、講義後に確認テストを実施し、知識の定着のために使用している。学習管理システム「実践」を用いて、過去の国家試験を解き、苦手な分野や問題をピックアップして復習を促し、授業内に試験としても活用している。授業動画を録画し、予習に使用できるように配信している。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

①教育（授業，実習）の創意工夫（B）

文字を少なく、図や表を中心に見やすいスライド作成を心がけた。

②学生の理解度の把握（B）

講義の最後に確認試験を実施した。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

次回の講義の予習課題を課した。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

対面およびメールで対応した。

⑤双方向授業への工夫（B）

質問内容等、個人対応とともに全体にフィードバックするように心がけた。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

過去10～20年分の国家試験および直近の模擬試験を参考に出題傾向を確認し、必ず押さえる部分とプラスで覚えるポイントをまとめて、説明した。また、以前行った内容の確認や復習の講義を行い、理解を深めるように促した。繰り返し復習できるように講義の資料や授業の録画動画を掲示した。総合臨床検査学演習では、試験成績が伸びない学生に対し、居残り学習を課し、集中的に勉強する時間帯を設けた。

5. 学生授業評価

※2023年度着任のため、当該年度の評価は次年度にフィードバックされることから、当該年度の振り返りを主として記載する。

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

学生から指摘されたことは、学生に合わせて調整するように心がけた。

②①の結果はどうでしたか。

指摘事項はなかった。

③②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

個人に合った勉強法を見つけられるように、自身で取り組んできたことや成績が伸びている学生の勉強法を紹介して、卒業後も勉強を続ける方法や手段が身に着けてられるようにしていきたい。講義でのインプットだけでなく、人に説明する、教えるというアウトプットができる環境も作っていきたいと考えている。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

臨床検査技師国家試験合格および就職先の内定。

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

積極的に参加した。参加できなかった際は録画で確認を行っている。

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

大学で学んだ知識が臨床の現場でどのように生かされ、やりがいを感じることができるかを伝え、モチベーションを上げて勉強に取り組めるように指導していく。

臨床検査技師を目指す学生が全員国家試験に合格することを目標にする。

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

シラバス、配布資料、確認テスト、レポート課題